

記者の眼

誰であつても、人との別れを避けることは出来ない。かかえの相対として、もいつかはの目を見てしまふのである。何が原因となかは三者三様か、とりわけ、身が病に侵されたときの衝撃と苦悩は計り知れない。なお悪いことに、容体が弱るにつれて病状はますます不安を帯びてくる。それが出来た。そして、心身ともに健康である親類縁者の目撃も一変する。自宅を病院を幾度も往復して面倒を見ることへのストレスは、極めて大きくなる。

これが「介護・看病疲れ」に引き寄せ、身も心も憔悴した結果、自殺に至る事例も見られる。警察庁が発表した「自殺の概要資料」によれば、介護・看病疲れが主な原因とされる自殺者は、増加の一途を辿っている。平成19年には65人だったが、23年になると336人にまで上昇しているのだ。この社会問題は、少子高齢化の影響で浮上したと思われる。被介護側が多くなる一方で介護側は減っていく、このような

錯綜する思いと伝えたい思い

状況下では負担は増えるばかりである。何もせず、後悔しないように。私の場合、祖父が病気が見つかり、治療のために入院した時期があった。声を掛けても反応が薄れていく姿を見て、心をつぶやいては、病状がますます不安を帯びてくる。それが出来た。そして、心身ともに健康である親類縁者の目撃も一変する。自宅を病院を幾度も往復して面倒を見ることへのストレスは、極めて大きくなる。

ついに、発病も困難になった父を目にする。憤りを覚える。自分は看病に専念していても、病人は快方へ向かう努力を怠っているように思ひ、病気の怒りが患者への怒りにすり替わるからである。無論、双方ともに全力を尽くしているのだが、入院している側は不自由な病院生活に耐えかね、精神的な態度をとり、家族もそれを笑って受け流す余裕がない。そうし

て、相手と関係が近いほど、軋轢が広がっていき、互いの疲労は限界に達する。精神の均衡は崩れ、やがて周囲に対する無力が災いして心身が崩壊しても、先にたない後悔と不幸を導くだけである。では、本当にすべきことは何なのか。それは、相手と関わり行動すること。当たり前のことだが、病に侵された人が、言いつけ通りに行動して、病状がますます不安を帯びてくる。それが出来た。そして、心身ともに健康である親類縁者の目撃も一変する。自宅を病院を幾度も往復して面倒を見ることへのストレスは、極めて大きくなる。

「偉人」リユミエール兄弟 Lesson 17 誉れ高き映画の父 1895年12月28日、パリのグラン・カフェで世界最初の映画が公開された。この時使用された映写機を発明した人物が、兄オーギュストと弟リュミエール兄弟だ。彼らの活躍で映画は始まり、世界中で様々な作品が作られるようになる。

当時、映像を観るための装置はすでに作られていたが、箱の中を覗き込むような形であり、現代の機器とは掛け離れたものであった。この機械を初めて見た際に感動を受けた彼らの父が、新しい映写機の研究を始める。それを兄弟が受け継いだのだ。苦学のため、彼らはシネマトグラフを完成させる。撮影、フィルム焼付けの機能を兼ね備え、さらに現代同様、スクリーン上に映像を映し出すことによって集団での鑑賞を可能にし、一度に多くの人が楽しめるようになった。

そして、シネマトグラフを用いて世界初の実写映画「工場の出口」が制作される。工場から人々が現れる約1分間のモノクロ無声映画であり、ドキュメンタリーの始祖となった作品だ。その他にも、ホームムービーの先駆けとなった「赤ん坊の食事」などが上映され、様々なジャンルの礎となる。また、これからの映画は彼ら自身が手掛けていた。彼らは映像を記録するだけでなく、精巧な演出を組み込むことで映画という芸術作品を生み出したのだ。そんなリュミエール兄弟の作品は色あせず、現代でも愛され続けている。

飽くなき探求心が成功へと繋がり、スクリーンには夢と希望を投影してきた。シネマトグラフの存在が、映画産業の発展に大きく寄与したのは事実と言える。今後も進化を重ね、人々に感動を与えていこう。(巻口直美)



近年、日本では高齢化の進展が大きな問題となっている。また、国際化と情報化の進展は、多様な生活様式を生み出した。このような社会背景の中、「できるだけ多くの人が利用可能な製品、建物、空間の設計」の重要性が高まっている。これをユニバーサルデザインという。福祉社会を実現するための重要なコンセプトとして、関心が寄せられているのだ。

ユニバーサルデザインの7原則

- 誰でも利用できる
- 危険性が低い
- 快適な空間の確保
- 簡潔な情報伝達
- 身体的な負担が軽い
- 使用道が明快である
- 用途の幅が広い

現代の日本において、万人に配慮する設計は広く浸透し、多様な製品やサービスが揃っている。しかし、優れたデザインを単に求めるのではなく、問題にどうするか。ユニバーサルデザインの二つの柱となる。第一は、海外に比べて、ものづくりに関する美意識は進んでいる。第二は、補強する必要がある。第三は、私たちが協会の活動の一つです。ビジネスの活動は、私たちの生活に、私たちが関心を持つべきです。第四は、私たちが協会の活動の一つです。ビジネスの活動は、私たちの生活に、私たちが関心を持つべきです。



推進活動について熱心に話す西村氏

「ユニバーサルデザイン」の活動の結晶として、福岡市で第4回国際ユニバーサルデザイン会議が2012年10月10日、11日、12日の3日間、福岡市で開催される。識者を招いて、本大会を受け、テーマを「安心・安全・ユニバーサルデザイン」の考え方を考える。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。

ユニバーサルデザインは、誰もが安心して利用できる。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。

ユニバーサルデザインは、誰もが安心して利用できる。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。



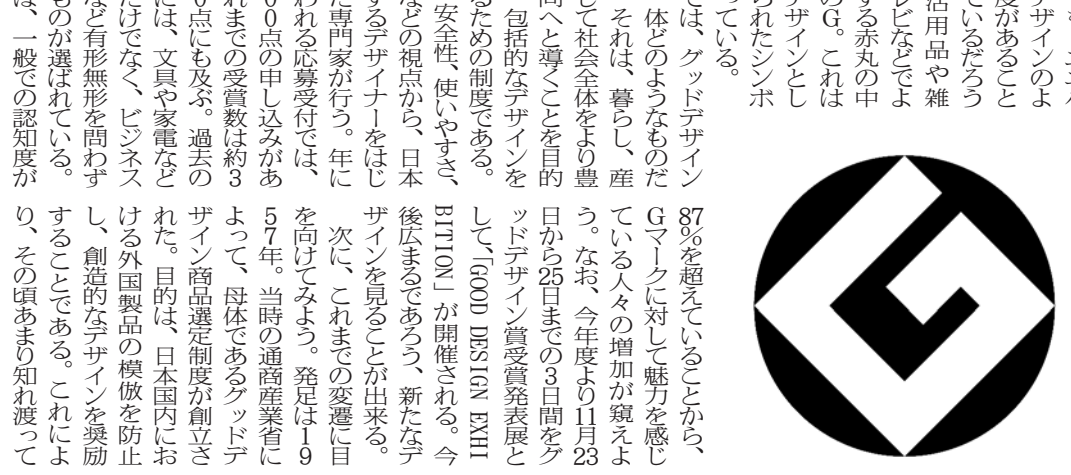
今日、至る所に見られるユニバーサルデザイン。日常の中で、気がつかない間に利用していることが多いはずだ。様々な人にとって便利であるデザインに溢れている暮らしを再認識しよう。

「誰かから誰にでも」へ

現在、世界中でユニバーサルデザインに対する意識が変化している。1990年代後半から2000年代前半にかけて、ユニバーサルデザインに関する条約がいくつか締結された。その結果、ユニバーサルデザインが注目を集めるようになった。その結果、ユニバーサルデザインが注目を集めるようになった。その結果、ユニバーサルデザインが注目を集めるようになった。

普及と実現の方策を問う

ユニバーサルデザインは、誰もが安心して利用できる。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。



ユニバーサルデザインは、誰もが安心して利用できる。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。

ユニバーサルデザインは、誰もが安心して利用できる。その利便性と配慮を感じられる。だが、社会の安全に身を任せると、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。だが、維持は可能になる。

特定非営利活動法人「ブルーフォー東北」代表 小本曾麻里

活動支援者 / 学生ボランティア募集中

東北被災地の震災孤児や児童福祉施設を支援するNPO法人です。東京など都市での毎日の買い物や飲食からの寄付を軸とする支援経済システムのボランティア活動です。NPOコソビエの立ち上げメンバーの小本曾麻里を中心に、社会人約30人を中心とした団体です。現在、東京大学、慶応大学、早稲田大学の学生ボランティアも参加中。レストランなどの協賛企業や、志ある学生の参加を募集しています。ぜひ一度、ホームページをご覧ください。

検索 おいでよ東京

www.bluefortohoku.jp
admin@bluefortohoku.jp

Tokyo Skytree Asakusa Tokyo Metropolitan Government Roppongi Hills Tokyo Tower

学習院大学ミスコンテスト

2012.11.8.(木)

GUEST: 未定

当日: 500円
前売り: 300円

OPEN: 17:30
START: 18:00(予定)

@学習院大学百周年記念会館

